

# かけはし

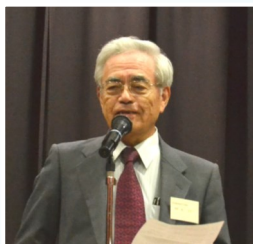


## 平成28年度国際医療福祉大学病院地域医療連携懇談会開催

平成28年5月30日、当院B棟5階講堂において地域医療連携懇談会を開催しました。



桃井眞里子病院長



深町彰那須郡市  
医師会長

### 開催内容

司会 副院長 柴信行医師

1. 主催者挨拶 国際医療福祉大学病院 桃井眞里子病院長
2. 来賓挨拶 那須郡市医師会 会長 深町 彰先生
3. 学術講演会

座長 副院長 大和田 倫孝医師

「肝疾患診療の最前線」

副院長 大竹 孝明医師

「糖尿病の体質はどこまでわかったのか？」

糖尿病内分泌代謝科部長 粟田 卓也医師

### 4. 懇親会

司会 事務局 杉田 昭博 事務局長

挨拶 地域医療福祉ネットワーク 会長 鈴木明裕先生

乾杯 国際医療福祉大学病院 佐藤 郁夫特別顧問

中締め 副院長 鈴木 裕医師

当日は、招待医療機関から39名、院内より59名の参加がありました。ご来院の先生方と交流を深める良い機会となりました。この場をかりて御礼を申し上げます。次回の連携懇談会は今年の10月を予定しております。



鈴木 明裕会長



江部 寛先生



小沼 一郎先生

## 国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク 第一回総会開催



地域医療福祉ネットワーク総会  
鈴木明裕会長挨拶

平成平成28年5月30日、地域連携懇談会に先立って地域医療福祉ネットワークの第一回総会を開催しました。初代会長である西那須野塩原地区医師会長の鈴木明裕先生の議長で、ネットワーク会則と初代役員の承認が行われました。本年度の事業内容として、「かかりつけ連携手帳」と、「突然死撲滅キャンペーン」の提案があり、いずれもネットワークの事業として承認されました。平成28年6月14日現在、地域医療福祉ネットワークの登録会員は45名となっております。引き続きご登録のほどよろしくお願い申し上げます。



地域医療福祉ネットワーク総会



地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

電話 0287-37-2221 (代表)

地域医療連携室ホームページ URL: <http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>

# 歯科口腔外科よりお知らせ



歯科口腔外科センター長

くさま みきお  
草間 幹夫

日頃より、多数の患者さんをご紹介いただき、那須郡市医師会および歯科医師会の先生方には感謝の念に耐えません。おかげさまで、2015年度は、地域からの新患紹介数が最も多い診療科という結果になり、本年も持続しております。高齢者の増加とともに、口腔疾患および顎・口腔領域の不調を訴える患者が増加しています。

## 口腔癌 (図1~5)

口腔癌（多くは口腔粘膜由来の扁平上皮癌）患者は、高齢化社会の到来とともに大変増加しています。舌癌が最も多く、2番目に上顎・下顎の歯肉癌が多く見られます。2010年、2011年に私も参加して定めた『口腔癌診療ガイドライン』および『口腔癌の診断指針・規約』に則り、当病院病理診断科の協力を得て、早期診断および早期の手術を行って、口腔機能温存に努めています。また、口腔癌だけではなく、口腔粘膜に生じる白板症、紅板症および扁平苔癬など、「潜在性悪性疾患」、いわゆる前癌病変の癌化を未然に防止するべく手術を主体の診療を行っています。口腔癌は、喫煙が大きなファクターであり、歯科からの禁煙治療も目指しております。

図1



右舌縁の癌性潰瘍

図2



CT造影写真で右下顎骨内側に癌を示す明瞭な不透過像

図3



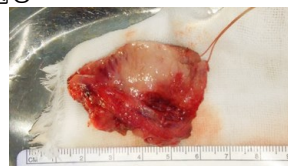
全身麻酔下の舌部分切除

図4



癌切除後人工真皮を用いて閉創

図5



手術摘出標本

## ビスフォスフォネートおよびデノスマブ関連顎骨壊死 (図6、7)

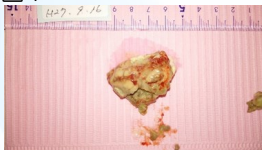
ビスフォスフォネート製剤 (BP製剤) およびデノスマブ (抗ランクル抗体、ランマーク) 関連顎骨壊死 (MRONJ) が増加しています。(公社)日本口腔外科学会の昨年の報告では、調査期間3年間で、全国で4,797名が登録されています。原因疾患は、56%が骨粗鬆症、36%が乳癌をはじめとする癌、6%が多発性骨髄腫です。原因となるBP製剤は、注射、内服がほぼ同数です。部位は、下顎骨・上顎骨の順に多い結果です。突然歯肉に潰瘍を生じ、骨が露出する症例および拔牙を行った際に拔牙窩が治癒せずに、そこから骨髄炎が拡大し、骨壊死に移行することが多いです。初発症状は、①疼痛、②歯肉周囲の腫脹、③骨露出および排膿です。原因薬剤は、①ゾレドロン酸水和物 (ゾメタ)、②アレンドロン酸ナトリウム水和物 (フォサマック、ボナロン) で、デノスマブ (ランマーク) でも発症しています。多くは3年以上の投与の場合にみられています。MRONJ発症や増悪のリスク因子は、ステロイド療法、ホルモン療法、糖尿病、悪性腫瘍化学療法、喫煙、飲酒、口腔内炎症、口腔衛生不良、高齢者が挙げられます。那須地区でも、BP製剤の投与は多くなっています。ぜひ、歯科口腔外科との連携をお考えください。

図6



右上顎骨髄炎

図7



摘出した上顎の壊死骨

## 周術期口腔機能管理

心疾患による手術前患者、血管外科の手術患者、種々の悪性腫瘍手術患者および化学療法患者に、術後の創感染および術後の肺炎防止のため、周術期口腔機能管理を行っています。村上久美子主任歯科衛生士をはじめ、当科の歯科衛生士の協力の下、機能的に診療を行っています。

具体的には、

- ①口腔疾患の術前診断と対応：口腔内の慢性炎症、腫瘍、口腔粘膜疾患、顎骨疾患などがある場合、迅速な対応を行う。
- ②口腔内清掃：歯科衛生士との協力の下、口腔内の白苔、歯石、喀痰などの清掃を行う。
- ③口腔機能の維持：摂食、咀嚼、嚥下機能の維持、口腔・顔面諸筋肉の機能保持、口腔乾燥の防止

2015年度より本格的に上記を行い、百数十名の患者に対応し、おかげさまで現時点では術後の創感染および肺炎は全例防止できています。

### 歯科口腔外科診療体制(予約制)

診療日：月(午前)・火~土曜日  
歯科口腔外科または地域医療連携室へご連絡下さい。

歯科口腔外科センター長 草間 幹夫  
プロフィール

- ・東京医科歯科大学卒、
- ・自治医科大学名誉教授
- ・日本口腔内科学会前理事長

# 形成外科よりアンケート報告



形成外科部長  
こさか まさあき  
小坂 正明

当院では褥瘡や巻き爪のほか、糖尿病性足潰瘍・重症虚血肢などの足病変に対して形成外科を中心に関連各科の協力のもと治療を行なっています。しかし近年は高齢化と共に、これら慢性難治性潰瘍の患者数は増加の一途をたどっており、その傾向は在宅医療の現場でも同じと拝察いたします。

そこで日ごろ在宅医療に関わっておられる先生方に、これら褥瘡や足病変で難渋されている症例や局所処置の疑問点など実際の「生の声」をお伺いし、ひいては県下の慢性難治性潰瘍の治療成績の向上へと繋げたいと考え、往復はがきでのアンケートを実施しました。

○実施時期：2016年1月～4月

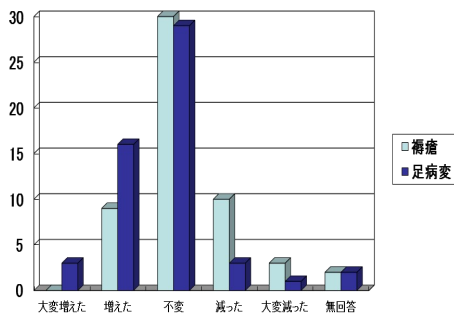
○調査対象：県北地域の開業医、ケアセンター、訪問看護ステーション、訪問介護施設など（計129件）

○回答数：54件（回答率41.9%）

○回答者の内訳：①医師19件、②看護師20件、③ケアマネージャー5件、④その他10件でした。

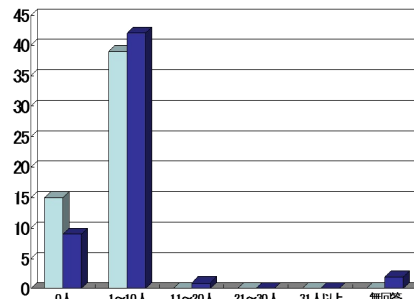
以下に分析結果を示します。

## Q1: 最近の患者数の増減傾向は？



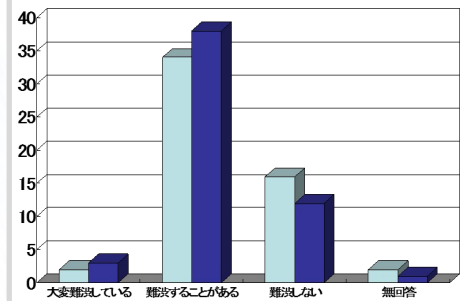
最近の患者数の動向は褥瘡よりも足病変患者が増加傾向

## Q2: 最近1ヶ月間に何人の治療(ケア)をしましたか？



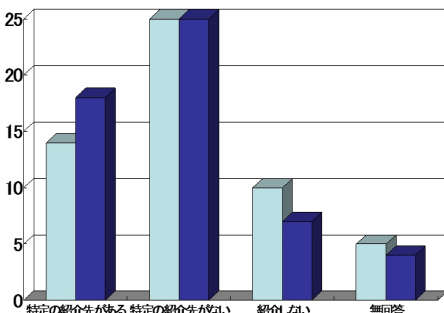
実際に治療(ケア)した数もQ1と同様、足病変患者が多い

## Q3: 治療(ケア)で難渋することはありますか？



褥瘡も足病変も治療(ケア)に難渋されることが少なくない

## Q4: 患者を他の医療機関に紹介することはありますか？



治療に難渋した場合、他の医療機関に紹介するかについては「特定の紹介先を持っていない」とする回答が最も多かった。具体的には「入院治療をさせたいが在宅患者での現状は難しい」「寝たきり患者の診療依頼が難しい」など創傷ケア関連での相談の難しさがある

その他の自由回答では、「肥厚爪や爪白癬の患者が増えている」「(分厚くて)爪きりが出来ない」「巻き爪や爪白癬治療のアドバイスがほしい」など変形爪に関する相談が多く聞かれました。また「創傷管理のアドバイスがほしい」、「褥瘡や足病変についてのセミナーや研修会を開いてほしい」という希望もあり県北地域で創傷ケアを学ぶ機会が少ないことが分かります。

県北地域では創傷ケアを専門とする形成外科医や創傷ケア認定看護師の数が限られており、困ったときに気軽に相談できる環境づくりが課題です。今後の地域連携室の取り組みとして創傷ケアに関して気軽に相談できる相談窓口の必要性を痛感しており、在宅医療に関わっておられる施設とのより緊密な連携・ネットワーク作りに積極的に取り組みたいと考えています。

## 形成外科の診療範囲

①熱傷、②顔面外傷、③口唇口蓋裂、④手足の外傷、⑤でべそ・小耳症などの体表先天異常、⑥皮膚腫瘍、⑦乳がんなど悪性腫瘍の再建、⑧傷あとの修正、⑨褥瘡、下肢虚血、⑩美容、⑪眼瞼下垂、巻き爪など多岐にわたります。現在、入院手術は月約20例、外来手術も月約60~80例に増えました。内訳は皮膚腫瘍や顔面外傷などが多いですが、最近は眼瞼下垂のご紹介を頂くことが多くなってきました。ご高齢のかたでも術後は視界が広がるだけでなく、肩こりが楽になった、気分も明るくなった、と喜ばれます。また高度な爪変形に対しても愛護的抜爪や矯正など積極的に治療を進めておりますのでご紹介をお待ちしております。

形成外科診療体制：診療日：月~土曜日

但し、水(午後)、土(午後)は予約制  
地域医療連携室へご連絡下さい。

形成外科部長 小坂 正明

プロフィール

- ・近畿大学卒
- ・日本形成外科学会認定形成外科専門医
- ・日本褥瘡学会認定師(医師)

ほか

# 栃木県医師会塩原温泉病院

回復期リハビリテーション ～「支えやすくする」医療へ～

## インタビュー

「かけはし」では、地域の先生方にインタビューをさせていただき地域医療に関わるお話やお知らせをお届けしたいと思います。今回は栃木県医師会塩原温泉病院 病院長 森山俊男先生にお願いしました。



もりやま としお  
森山 俊男 病院長  
那須郡市医師会理事

### 当院との医療連携について期待されることはどのような事ですか？

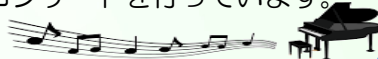
各専門家の著名な先生方が国際医療福祉大学病院には在籍されているので、一人のかけつけ医として、専門家の先生にご意見をいただくため病棟連携で非常に助かっています。また、病院としての枠組みでは、急性期の国際医療福祉大学病院から回復期へ患者を受入れていて、地域完結型医療実現のために、お互い協力して頑張っていくことが大切だと思います。急性期は在院日数のこともあるので、我々が生活機能を高めるために回復リハビリを行い、さらに国際医療福祉大学病院の隣に介護保健施設もあるので、非常に活用して連携させていただいています。これからも良好な関係を保っていきたいと思います。

### ご自身の病院で力を入れていることを教えてください。

まずは、「支えやすくする」医療です。「治す」医療から「支える」医療でしたが、さらに一歩進んで「支えやすくする」医療へと力をいれています。急病になった場合、まず急性期病院で治療を受けます。薬剤や手術など医学的な治療が進歩して一命をとりとめる事が多くなりました。一方で治療後に、高齢者のフレイル（虚弱）で自らの回復力が低下しているために、身体のご不自由な方が、家族の介護が必要となり、このままの状態では自宅退院が困難な場合も見受けられるようになりました。入院による合併症など治療継続、嚥下障害など全身状態の回復のための治療や麻痺などの後遺症、身の回りの不自由を改善する専門的なリハビリテーションの両面からの治療が行われます。つまり退院後の家族介護の介護負担を可能な限り少なくさせる「支えやすくする」医療が行われている事が特徴です。次に、温泉療法ですね。温泉療法は地域包括ケアシステムの中で元気な高齢者を多くするためにも重要です。温泉を利用したリハビリの特徴として「温泉成分の化学的作用」「温熱作用」と「浮力」が挙げられます。回復期にも、運動器疾患にも麻痺の軽減、早期に歩行ができるので、温泉は効果が認められています。医師会病院としては全国で初めて温泉をスポーツリハビリにも活用しています。それから、国際医療福祉大学病院でも行っている、ニューロ・リハビリがあります。「HAL」（ハル）、「IVES（アイビス）」と呼ばれ機器を5年前より導入しており、この4月には最新型の身体動作支援ロボットスーツが入りました。最後に、リハビリスタッフは約100名ほどですが、国際医療福祉大学の卒業生が多く就職されています。卒後の研修病院として教育や多職種連携にも力を入れています。

### ご自身のストレス解消法を教えてください。

芸術一般が大好きですね、楽器はフルートで中学よりオーケストラに入って演奏していました。大学時代では苦勞してオーケストラを創設し初めは4、5名でしたが、今や大オーケストラで約50名以上となっています。クラシック音楽を聴くことや演奏することも好きですし、絵は描いたり、観賞したりするのも好きですし、心のおもむくままにカメラで写真を撮影するのも好きですね。毎日、本は欠かさず読んでいます。今は、ハーブや、ピアノの伴奏者のかたと年数回、院内コンサートを行っています。



### 最後に地域の方々、患者さんへ一言お願いします。

近年、健康寿命についての一般の関心は高まっている様子で、トレーナー姿で散歩やジョギングする人々、行楽地でトレッキングを楽しむ人々など健康づくりに励むシニア世代の人々の姿が目立って増えてきたように思います。完璧な健康なシニア世代はむしろ珍しくて、高血圧や脂質代謝異常症や運動器疾患などで治療を受けている人が少なくないと思います。それらの治療の継続と、食事、運動など生活習慣について改善の継続が健康寿命を延長に最も重要です。このように疾患治療と生活機能の両面から支える医療が重要性を増していると思います。

## 【基本情報】



病院長 森山 俊男  
診療科目 内科、神経内科、整形外科  
リウマチ科、リハビリテーション科  
住所 那須塩原市塩原1333  
休診日 土・日・祝日  
電話 0287-32-4111

2016/8/15 国際医療福祉大学病院  
発行：地域医療連携室